

農業

よねざわ



メロンの収穫をする五十嵐健さん

南原地区（李山）の五十嵐健（たける）さん（35歳）をご紹介します。現在、新規就農6年目になり、ハウス4棟の12aでメロン、10aの畑でとうもろこしを栽培しています。主な販売先は、個人販売とふるさと納税の返礼品、道の駅米沢でも販売しているそうです。

就農前は陸上自衛隊で勤務していた五十嵐さんベーチェット病という難病を発症し、自分のペースで仕事が出来、やりがいを求めて就農されました。

「米沢メロンと言えば五十嵐ファームと言つてもらえるよう、米沢の方、そして全国の方々に美味しいメロンを是非味わってほしい。病気で大変な思いをされている方に元気を届けたい。」と熱く話してくれました。

主な記事



- | | |
|---|---|
| ■新年の御挨拶 | 2 |
| ■山形県農業委員会大会、農地パトロール | 3 |
| ■地域かわら版（農と食の元気っ子講座） | 4 |
| ■農業者との意見交換会、女性農業委員・推進委員研修会、農サポやまがたからのお知らせ | 5 |
| ■農業振興課からのお知らせ | 6 |
| ■農業委員と農地利用最適化推進委員の募集 | 7 |
| ■ダラス先生感謝祭フェスタ、食料支援 | 8 |

新年の御挨拶



農業委員会会長 小 関 善 隆



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新しい年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、豪雪による果樹の枝折れなどの被害や、高温によるさくらんぼ等の収量への影響が見られました。一方で、水稻においては干ばつの心配もありましたが、収量・品質ともに良好な年となりました。

「令和の米騒動」と称される状況の中、米価の高騰と集荷競争により、JAの概算金は大きく上昇しました。生産者にとっては、所得が向上し再生産可能な価格となりましたが、急激な価格上昇が消費者の米離れにつながる懸念もございます。昨今、米の需給を巡る政策は変化が著しい状況にあります。石破内閣では米の需要緩和と価格抑制のため、備蓄米の放出や輸入米の前倒し、そして増産へと政策転換が示されました。その後、高市内閣が誕生し、農林水産大臣に就任された鈴木憲和氏は、需要に応じた米の生産へと政策を転換しました。まさに「猫の目農政」と言われる所以であります。地元選出の鈴木大臣には、5年、10年先を見据えた持続可能な農政を期待したいと思います。

令和6年度に地域計画が策定され、全国で受け手のいらない農地が3割という状況でした。地域計画は策定で終わりではなく、継続的な見直しが必要です。農業委員会は、農地利用の最適化に向け、地域計画の実現とブランディングに取り組んでまいります。

さて、今年の干支は「丙午」。「午は陽気で派手好き」「丙午は情熱や強い変化を象徴する」と言われています。多くの課題を抱える農業・農政ではありますが、情熱と行動力で突き進み、道を切り開く様な年にしたいものです。

農家の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様におかれましては、本年も変わらぬ御理解と御協力を心よりお願い申し上げます。

結びに、皆様の御多幸を御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

謹んで新春のお慶びを
申し上げます

農業委員会委員一同 農地利用最適化
推進委員一同

会長	小関 善隆	委員	石川 和広
会長職務代理者	我彦 正福	委員	遠藤 耕一
委員	山王堂民榮	委員	黒田義一郎
委員	佐藤 政和	委員	亀田 透
委員	宮崎 雅文	委員	小関 恭弘
委員	木村 彰博	委員	新藤 広一
委員	鈴木 和義	委員	鈴木 勘助
委員	木村 韶	委員	高橋 政彦
委員	遠藤 由美	委員	清井 信夫
委員	高山 吉典	委員	竹内 一利
委員	小関 敏弘	委員	高橋 修二
委員	橋本 政美	委員	吉田 謙
委員	古畑 功一	委員	諸橋 勝次
委員	佐藤 利夫	委員	山崎 榮一
委員	相田市三郎	委員	竹田 修二
委員	伊藤 俊浩	委員	吉田 清志
委員	鈴木 晃子	委員	油井 利明
委員	桐澤林右衛門	委員	我妻 協祐



山形県農業委員大会に参加して

11月5日、やまぎん県民ホール（山形市）に於いて県内各市町村の農業委員会が一堂に会し、山形県農業委員会大会が開催されました。米沢市農業委員会も参加しました。



我彦正福委員受賞の様子



高橋信夫委員受賞の様子

【農業委員会】
橋本政美

開会行事は、農業委員会憲章の唱和、主催者挨拶、表彰、来賓祝辞と進められ、表彰では、本市からは、我彦正福氏、高橋信夫氏が農業会議長表彰を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。山形県知事、衆議院議員、参議院議員、農業協同組合等よりたくさんのお祝辞をいただきました。講演では、全国農業会議所事務局長の植田智己氏が「最近の農業情勢と地域計画の実現・プラスユアップに向けた農業委員会活動」と題し、農業を取り巻く最新の情勢と、農業委員会が果たすべき役割についてお話をされました。活動事例報告として、飯豊町農業委員会

会長の安部数幸氏より「一般社団法人ふあーむなかつがわの取組みについて—未来へ農地を守り、地域農業を守る—」と題し、先進的な活動事例が紹介されました。

農業の活性化に向けた具体的な取り組みは、参加者にとって大きな学びとなりました。参加者全員で「ガンバロウ三唱」を行い閉会となりました。



大会の様子

農業委員会では、農地法により市内の農地の利用状況を把握するため、8月と10月に農地パトロールを行っています。

8月の農地パトロールでは、地域の農地利用の確認、遊休農地の実態を把握した農地の所有者に対し、今後の農地利用の意向調査を実施し、遊休農地の解消に取り組み、さらなる遊休農地を発生させない対策や解消に向けて取り

農地の利用、保全管理等でお困りの際は、お近くの農業委員または農地利用最適化推進委員までご相談ください。

【農業委員会】
鈴木和義



農地パトロール

組んでいます。

10月は、農地法による申請内容調査を行い所有権移転や賃貸された農地が耕作されているか、農地転用許可を受けた農地が申請通りの計画で転用されているか確認を行いました。

地域かわら版

農と食の元気っ子講座

「農と食の元気っ子講座」が松川コミュニティセンターで開催されました。この講座は、身近な農産品を使って調理を体験することで、食への感謝の気持ち・米沢の食文化・食と農業の繋がり等を感じてほしいという思いから、女性農業委員を中心にお企画し、農業委員・農地利用最適化推進委員のサポートで毎年行われているものです。



第1回は9月13日に米粉を使った石窯焼きピザ作りを行い、11名の小学生が参加しました。ピザ生地をそれぞれがコネ、手で温めながら発酵させ、成形、トッピングを楽しみ、レンガ造りの石窯でおいしく焼いたピザを楽しく食べました。



第2回は11月1日こそば打ち講座を行い、12組の参加がありました。講師の山王堂民榮委員のお手本を見て、親子でそばを打ち、自分たちで打ったそばを味わいながら食べました。



【農業委員 横渡由美】

米沢のお米やそばの生産についても勉強し、きっと充実した時間だったのだなと思います。

農業者との意見交換会

農業委員・農地利用最適化推進委員と農業者との意見交換会が、3ブロックに分かれて開催されました。市からは、農業振興課、森林農村整備課に出席いただき、各世代の農業者が抱える課題や未来への展望について、活発な議論が交わされました。



全国的に大きなニュー
スとなり、市内でも相次
いだ熊の出没が深刻な問
題として取り上げられ、
「追い払いや駆除に大変
苦労した」という切実な
声が聞かれました。また、
全国的に大きな二ユ
スとなり、市内でも相次
いだ熊の出没が深刻な問
題として取り上げられ、
「追い払いや駆除に大変
苦労した」という切実な
声が聞かれました。また、

高齢化による農地維持の
困難さや、後継者不足と
いった「担い手問題」に
対する強い危機感が共有
されました。こうした厳
しい現実が共有される一
方で、若手農業者からは、
従来の枠に囚われない新
たな挑戦や、意欲的な提
案が多く寄せられ、未来
の農業を牽引していく頼
もしさと地域への情熱が
ひしひしと伝わってきま
した。地域農業が抱える
課題を共有するだけでな
く、若き担い手の活力を
再認識する貴重な機会と
なりました。

【農業委員 伊藤俊造】

【農業委員 鈴木晃子】



目標についてお話を伺い、お互いに
刺激を受けた有意義な交流となりま
した。岡さんの紅
玉りんごや山澤さ
んのサツマイモを
使ったスイーツも
振る舞われ、実り
多い秋の一日を締
めくくりました。

置賜3市5町の元気な女性たちが 集う年に一度の研修会

10月23日、令和7年度置賜地方農業委員会連絡協議会女性農業委員・推進委員研修会が本市で開催されました。伝国の杜での開会後、参加者は株式会社米沢牛黄木でISO22000取得の精

肉加工施設を視察し、徹底した衛生管理と品質へのこだわりを学びました。その後「麦わらぼうし（大字築沢）」へ

移動し、新規就農者の岡義将さん、山澤博文さん、五十嵐健さんから就農のきっかけや今後の

農業者年金

◆加入の条件は3つ

- ①国民年金第1号被保険者
＊国民年金の付加年金（月額400円）への加入が必要です。
- ②年間60日以上農業に従事
- ③65歳未満
＊60歳以上は、国民年金の任意加入者に限ります。

◆6つのポイント

- ①農業者なら広く加入できる
- ②積立方式・確定拠出型で少子高齢化時代に強い
- ③保険料は自由に決められる
- ④終身年金、80歳前に亡くなっ
た場合には死亡一時金がある
- ⑤税制面での優遇措置がある
- ⑥保険料の国庫補助がある



◎農業者年金の内容やご相談について
は、農業委員会またはJAにお問い合わせください。

農サポやまがた からお知らせです

令和7年から農地中間管理事業の利用には
『手数料』のご負担をお願いします

農地中間管理事業の運営には、やまがた農業支援センターの自主財源を一部充当している経費があり、この負担が年々増加しています。このため、将来に向けて持続的、安定的にこの事業をご利用いただけるよう、利用者の皆様に一部ご負担をお願いすることといたしました。

なにとぞ皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

- 対象 令和6年10月公告以降に契約なるものから順次
- 手数料の額 年間賃料に0.75%を掛けた額
(年間賃料が一万元の場合の手数料は75円)
- 納付の方法 毎年の賃料支払・納入時

詳しくは やまがた農業支援センター（023-631-0697）
またはセンターのホームページをご覧ください
※「農サポやまがた」は やまがた農業支援センターの愛称です

農業振興課からのお知らせ

国・県補助事業について

1 農地利用効率化等支援事業

概要：地域計画に位置付けられた、地域の中心となる経営体の育成において必要な農業用機械・施設の導入支援
対象者：農業を営む個人・法人、営農集団・集落営農組織・農業者が組織する団体
要件：成果目標の達成
補助率：事業費の3／10以内（補助上限額 300万円）

2 未来を育む農業担い手育成支援事業

- ①担い手の経営発展の取組み（認定新規就農者の規模拡大や新品目の導入等を支援）
対象者：認定新規就農者
要件：成果目標の達成
補助率：事業費の1／2以内（補助上限額 500万円）
- ②地域農業を支える組織的な取組み（生産性向上等の取組みを支援）
対象者：営農組織、農業者団体、新規就農者受入組織等
要件：成果目標の達成
補助率：事業費の3／10以内（補助上限額 800万円）

3 新規就農者育成総合対策事業

概要：新規就農者に対し、就農直後の経営確立を支援
対象者：独立・自営就農する49歳以下
要件：5年後までに農業で生計が成り立つことなど
交付額：月12.5万円（最長3年間）

各事業の選択するメニューにより、対象者・要件・補助率・交付額が異なります。

なお、農業用機械の導入等については、他にも補助事業がございます。

詳細については、農業振興課農業振興担当までお問い合わせいただき、ご活用ください。

家族経営協定を結びませんか

家族経営協定とは、家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるものです。

家族経営協定の取り決めの内容や様式に決まりはありません。家族みんなの話し合いを通じて、必要なことから一つずつ始めてみましょう。

主な制度上のメリット

家族経営協定に家族それぞれの経営の参画や収益分配などの事項を盛り込み、締結・実行している場合は主に以下の制度利用ができます。

認定農業者の共同申請

実質的に共同経営を行っている場合、収益の配分と経営運営方針決定への参画が明確にされている家族経営協定が結ばれていること等を要件に、夫婦等による認定農業者の共同申請が認められます。

農業者年金の国庫補助

青色申告をしている認定農業者等と家族経営協定を締結して、経営に参画している配偶者、後継者に対しては、基本となる保険料（2万円）のうち一定割合の国庫補助を受けられます。

詳しくは、下記の担当までお問い合わせください。

担当：農業振興課農業振興担当 22-5111（内線 4306～4307）

または農業委員会事務局 22-5111（内線 5601）

農業委員と農地利用最適化推進委員を募集します。

両委員とも、農業に熱意と識見を有する方を募集します。あなたの力で、①担い手への農地利用の集積・集約化の推進 ②遊休農地の発生防止・解消 ③新規参入の促進による農地等の利用の最適化を推進しましょう。

項目	農業委員	農地利用最適化推進委員
応募方法	◎他薦又は自薦によります。 ◎所定の届出様式（推薦用と応募用の2種類あります。）に必要事項を記載の上、直接または郵送で米沢市農業委員会事務局へ提出してください。 ◎届出様式は、農業委員会事務局で直接お受け取りくださいか、市ホームページよりダウンロードしてください。	
応募受付期間	令和8年1月5日（月）～令和8年2月2日（月）必着	
対象者	農業に関する識見を有し、農地等の利用の最適化の推進に関する事項やその他農業委員会が所掌する事項に関し、その職務を適切に行なうことができる人。	農業に関する識見を有し、担当する区域において農地等の利用の最適化の推進のための活動ができる人。
募集委員数	19名（うち農業者と利害関係のない中立委員を1名以上含める） ○市内全域を1区として募集します。	16名 ○担当区域（旧村単位）ごとに人数を定め募集します。
任期	令和8年7月20日から令和11年7月19日まで	
報酬	特別職報酬条例により支給されます。	
主な職務内容	◎毎月1回定例総会に出席して、農地の権利移動等の許認可及び農地転用許可の審査を行う。 【推進委員と連携する業務】 - 担い手への農地集積や集約化（地域計画にかかる話し合いへの参加） - 遊休農地の発生防止と解消（農地パトロール） - 農業者新規参入の促進業務 - その他農業委員会の所掌事項	【農業委員と連携する業務】 - 担い手への農地集積や集約化（地域計画にかかる話し合いへの参加） - 遊休農地の発生防止と解消（農地パトロール） - 農業者新規参入の促進業務 - その他農業委員会の所掌事項
応募資格	◎次のすべてに該当する人は、委員に応募することができます。 - 農業委員会法第8条4項の各号（破産者、拘禁刑以上の刑に処せられている者）に該当しない人 - 米沢市暴力団排除条例に該当しない人 - 基本として市内に住所を有する人 - 法令により兼職が禁止されている職に就いていない人 - 市の職員でない人 農業委員と農地利用最適化推進委員の両方に応募することはできますが、兼ねることはできません。	
選任方法	推薦を受けた人および応募した人の中から候補者を選定し、市議会の同意を得たうえで市長が任命します。 ●必要に応じて農業委員評価委員会を開催し、提出された書類をもとに選定します。 ●候補者の選任に当たっては、法律の規定などで選定にあたっての条件があります。 - 認定農業者が定数の4分の1以上であること。 - 農業者と利害関係のない中立委員を1名以上含める。 ●次の事項についても配慮します。 - 青年(50歳未満)や女性の積極的な登用をはかる。 - 委員の配置は、区域別に隔たりがないようにする。	推薦を受けた人および応募した人の中から選定し、農業委員会が委嘱します。 ●必要に応じて農地利用最適化推進委員評価委員会を開催し、提出された書類をもとに選定します。
その他	○両委員とも米沢市の特別職の非常勤職員となります。 ○秘密保持の義務があり、委員として職務上知り得た情報は、在任中だけでなく退任後も漏らしてはいけません。 ○応募状況については、市ホームページで公表します。なお、公表内容は必要事項のみ掲載します。	

農地利用最適化推進委員の担当区域と募集人数

（農地面積、農家数、区域の状況などを検討した結果、前回令和5年度の改選と同じ人数としました。）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
区域	旧市	上長井	万世	広幡	六郷	塩井	三沢 田沢	窪田	山上	上郷	南原	11 区域
人数	2	1	1	1	1	1	2	2	1	2	2	16

※田沢地区は、三沢地区に含む。矢子地区は、広幡地区に含む。

ダラス先生感謝祭 150周年フェスタに参加して

11月1日、米沢市役所駐車場で「ダラス先生感謝祭150周年フェスタ」が開催されました。英国人教師チャールズ・ヘンリー・ダラス氏の尽力で歴史を刻む館山りんごと米沢牛、共に150周年を記念し、若手農業者による軽トラ市「青空マルシェ」との限定コラボが実現！当日は雨模様ながら多くの方々が来場し、活気



に満ち溢れました。新鮮な地元野菜、果物、加工品が並ぶ軽トラ市ブース



では、開始早々から行列ができ、特に米沢牛の販売は大盛況。「毎年楽しみにしている」との声も聞かれ、キッチンカー、館山りんご、米沢牛、軽トラ市と、米沢のグルメを存分に満喫できるイベントとなりました。

【農業委員 宮崎雅文】

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

農家の経営に役立つ！
農政・農業・農村の動き、
問題をタイムリーに！！

*月4回金曜日発行

*講読料

新聞本紙=月額 700円
電子新聞=月額 500円

お問い合わせ

農業委員・推進委員または
農業委員会事務局へ
TEL 22-5111 内線 5601

表紙で登場いた
だきました五十嵐
健（たける）さん
は、SNSにも
力を入れており
Instagram、HP
を是非見てほしい
とおっしゃって
いました。ちょっと
覗いてみてはいか
がでしょう？



「農家の気持ち」を社会福祉協議会へ

今年度2回目となる農業委員・農地利用最適化推進委員有志による社会福祉協議会善意銀行への食料品の寄附を11月に実施しました。有志代表が「物価高騰等の影響を考慮し、少量でも多くの委員の気持ちを届けたい！」と呼びかけ、収穫した新米等400kg以上や缶詰、レトルトカレーなど沢山の食料品が集まりました。

寄附した食料品は、生活に困っている方や、子ども食堂、そして自炊をされている学生さんなどに利用して頂くそうです。

【農業委員 横渡由美】



広報「農委よねざわ」115号

発行日 令和8年1月1日

発行 米沢市農業委員会

〒992-8501 米沢市金池5-2-25

☎0238-22-5111 (内線5601)

E-mail:noui@city.yonezawa.yamagata.jp

委員長 横渡 由美

委員 宮崎 雅文 山王堂民栄 木村 彰博

鈴木 和義 高山 吉典 橋本 政美

長谷部吉雄 相田市三郎 伊藤 俊浩

鈴木 晃子 桐澤林右衛門

印刷 株式会社羽陽印刷

編集後記

明けまして、おめでとうございます。昨年は、政治・経済・気候あらゆる面で、私たちを取り巻く環境が大きく変化する一年でした。このような変化の時代に身を置く中で、広報委員会も自然と活気に満ち溢れ、記事作りにも一段と熱意がこもった1年だったように思います。本年も、皆様にとってより一層中身の充実した「農委よねざわ」をお届けできるよう、広報委員会一同、精一杯取り組んでまいります。皆様からの情報提供や取材へのご協力、よろしくお願いいたします。

皆様にとって素敵な1年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。【広報委員長 横渡由美】